

High dose MTX+VCR 療法

計算不要のため体表面積換算省略

血液内科

急性骨髄性白血病、骨髄異形成症候群

ID

患者名

初回 ・ 継続 (前回 /)

印

印

★投与量

計算値

メソトレキセート注	1~5g/body	g	点滴静注	※6時間	Day1
オンコビン	1mg/body	mg	点滴静注	120分	Day1
オンコビン	0.5mg/body	mg	点滴静注	120分	Day2, 3
プレドニン注	20~80mg/body	mg	点滴静注	120分	Day1~3
ロイコボリン注	3A × 4回	mg	静注	6時間毎	Day2~5
メソトレキセート注	10~15mg/body	mg	髄注		Day2
キロサイド	20~40 mg/body	mg	髄注		Day2
プレドニン注	20~40 mg/body	mg	髄注		Day2

★ 点滴スケジュール

Day 1

※5HT₃拮抗剤=制吐剤(薬剤名は表紙参照)

ソルデム 3A 500mL+ メイロン 100mL 120分	生食 100mL+ 強ミノ 3A 10分	生食 50mL+ 5HT ₃ 拮抗剤1A 10分	5%ブドウ糖 500mL+ メソトレキセート #分	ソルデム 3A 500mL+ メイロン 40mL+ オンコビン+ プレドニン+ タチオン 1A 120分
--------------------------------------	----------------------------	---	------------------------------------	--

#メソトレキセートは最初の 250mL は 1 時間で、残り 250mL を 5 時間で点滴

Day2, 3

生食 100mL+ 強ミノ 3A 10分	生食 50mL+ 5HT ₃ 拮抗剤1A 10分	ソルデム 3A 500mL+ メイロン 40mL+ オンコビン+ プレドニン+ タチオン 1A 120分
----------------------------	---	--

Day2 のみ

メソトレキセート+ キロサイド+ プレドニン+注射用水(溶解用) 髄注
--

*ロイコボリンは、

Day2(18時)~Day5(24時)まで、6時間毎に側管より投与 (6時、12時、18時、24時)

★ 投与スケジュール…1クール 14日～

次回クール /

処方用量

メソトレキセート注	g	↓				
オンコビン	mg	↓	↓	↓		
プレドニン注	mg	↓	↓	↓		
ロイコボリン注	mg		↓	↓	↓	↓
メソトレキセート注	mg		↓			
キロサイド	mg		↓			
プレドニン注	mg		↓			
(投与日)		1	2	3	4	5
		/	/	/	/	/

★ 注意事項

- ・ 強化療法
- ・ 通常のクール数 1～2回
- ・ クレアチンクレアランス 60mL/min 以上で胸・腹水のない患者対象
- ・ Day1 は、原則外来で実施。Day2 以降は入院で実施
- ・ 体重・年齢、症状に応じて、メソトレキセートの投与量を変更する
- ・ 髄注後 3 時間はベッド上安静
- ・ 尿のアルカリ化 (pH7.0 以上)、尿量の確保 (3000mL/day 以上) をする
- ・ メソトレキセートの血中濃度をチェックしてそれに適合するよう、ロイコボリンを投与する
- ・ オンコビンは、2mg/body/week を超えない

[メソトレキセート](非炎症性)

- ・ 解毒剤 ロイコボリン
- ・ 希釈する場合、生食または 5%ブドウ糖等に加えて 250～500mL となるように調製
- ・ 尿が酸性側に傾くと尿細管に結晶が沈着する恐れあり
- ・ 尿を酸性化する利尿剤(フロセミド、フルイトランなど)の使用を避けること
- ・ 尿量が確保できない場合は、ダイアモックス内服投与
- ・ 腎障害予防のため、尿のアルカリ化と同時に、十分な水分補給を行い、メソトレキセートの尿中排泄を促す
- ・

[オンコビン](壊死性)

- ・ 生食、注射用水または 5%ブドウ糖を加えて溶解する
- ・ 1 回量は 2mg/body を超えない
- ・ 過剰投与時にホリナート(ロイコボリン)が有効であったとの症例報告がある

〔シタラビン〕(非炎症性)

- ・ 300～500mL に溶解し、12 時間毎に 3 時間かけて点滴(短縮すると痙攣、延長すると骨髄抑制が増加することある)
- ・ 強い骨髄機能抑制により、易感染状態になるので、無菌状態に近い状況下で治療を行い、感染予防処置を行うこと
- ・ 特有な副作用として眼症状(結膜炎、眼痛、羞明など)、皮膚症状(四肢末端に発疹、発赤、紅斑など)がある。眼症状は点眼剤により予防および軽減することが出来る。皮膚症状はステロイドにより軽減することができる
- ・ シタラビン症候群(発熱、筋肉痛、骨痛など)が現れることがあるので、十分観察を行うこと(通常、投与後 6～12 時間で発現する)

※MTX の血中濃度基準値(添付文書より)

MTX の投与後の時間(hr)	血中濃度(mol/L)	血中濃度(μ mol/L):換算
24	1×10^{-5}	10
48	1×10^{-6}	1
72	1×10^{-7}	0.1